

OSAKA スマホアンケート 2026 結果について

1. 実施目的

「大阪の子どもを守るネット対策事業」の一環として、大阪府内に通学している子どもや保護者のスマートフォン等の利用の実態を把握し、課題と対策について検討する際の基礎資料とするため、「OSAKA スマホアンケート 2026」を実施。

2. アンケート実施時期

令和8年6月29日から令和8年7月24日まで

3. アンケート対象者

大阪府内小学生から高校生までの児童・生徒とその保護者

4. 回答人数

小学生：27,821 人 小学生の保護者：6,625 人
中学生：26,279 人 中学生の保護者：7,753 人
高校生：29,931 人 高学生の保護者：14,716 人

5. アンケート結果概要

【児童・生徒】

- スマートフォンの所有率は、小学生の約5割、中学生の約9割、高校生の約10割となっている。
- 学校から帰ってから家で一番長くすることについて、「ネット」と回答したのは、小学生の約4割、中学生の約7割、高校生の約8割。一方、「勉強、読書」と回答したのは、小学生の約2割、中学生・高校生の約1割と、年齢が上がるにつれて減少する傾向。
- 小学生の約5割、中学生の約8割、高校生の約9割が、勉強等以外で一日2時間以上インターネットを利用。全体として年齢が上がるほど長時間化しやすい傾向。
- 小学生の約3割、中学生・高校生の約5割が、「会ったことがない人とネットでやりとりをした経験がある」と回答。
- フィルタリングを「設定している」子どもは、小学生の約3割、中学生の約4割、高校生の約3割と高くない。一方で、フィルタリングを設定しているか「分からない」子どもは小学生の約6割、中学生の約5割、高校生の約4割であり、フィルタリングのことを認識していない児童・生徒が多い。
- 家庭でスマートフォン使用時間のルールがあるのは、小学生の約5割、中学生の約4割、高校生の約1割となっている。
- 家庭で「個人情報を投稿しない」ルールがあるのは、小学生・中学生の約7割、高校生の約5割となっている。
- 家庭で「ネットで課金をしない」ルールがあるのは、小学生の約6割、中学生の約5割、高校生の約3割となっている。

【保護者】

- 子どもが「会ったことがない人とネットでやりとりをした経験がある」ことを把握しているのは、小学生の保護者の約 2 割、中学生・高校生の保護者の約 3 割。本人回答より低い結果となっている。
- 「子どもが使うスマートフォン等にフィルタリングを設定している」のは小学生の保護者の約 6 割、中学生の保護者の約 7 割、高校生の保護者の約 4 割。また、子どもの年齢が上がるほど「以前設定していた」の割合が増えており、フィルタリングが外されセキュリティが弱まる傾向。
- 「子どもとスマートフォン等の使い方のルールを決めている」のは、小学生・中学生の保護者の約 8 割、高校生の保護者の約 5 割。高校生になると、家庭でルールを決めず、自主性に任される傾向。

【課題】

- ① インターネット利用時間が長時間化していること。
- ② 児童・生徒が見知らぬ相手とオンライン上で関わる事象が発生しており、また、そのことについて保護者が把握していないケースが一定存在すること。
- ③ フィルタリングの設定率が低く、児童・生徒、保護者ともに認識・理解が十分でないこと。
- ④ 個人情報の投稿や課金など、子ども一人では判断が難しい行為がある一方で、家庭内で明確なルールが設けられていない場合があること。

【大阪府が実施する対策】 ※附番は上記課題番号に対応

- 児童・生徒・保護者等合同ワークショップの開催 ①②③④
→インターネットを介した被害の防止、フィルタリングの普及啓発、ネットトラブルの防止などを、青少年自身の視点で考え議論・発表する場を設け、ネット・リテラシー向上につなげる。
- スマホ・SNS のトラブルから青少年を守るための講師派遣の実施 ①②③④
→実際のネットトラブル事例とその回避方法を学び、危険を避けるための知識と判断力を高める。
- 被害防止に向けたターゲティング啓発の実施 ②④
→SNS 等で性被害等を誘発するおそれのある書き込みなどを行う青少年や大人に対して、注意喚起のメッセージ広告を表示し、被害を防止する。
- 中学 1 年生向け「SNS トラブルリーフレット」の配布 ②③④
→SNS に潜む危険や相談先を示し、トラブルの防止につなげる。
- 事業報告書及び事例・教材集の作成・学校への共有 ①②③④
→学校現場での実践を支えるための共通資料として活用を促す。